

2015 年度

単位互換科目概要（シラバス）

e ラーニング科目

A601 京都学：京都の食文化を知る

テーマ	A. 京都を探索		
科目名	京都学：京都の食文化を知る		
略科目名	京都学		
英文科目名	Studies in Kyoto		
大学名	京都ノートルダム女子大学		
連絡先	京都ノートルダム女子大学 教務部教務課 TEL：075-706-3745　FAX：075-706-3790		
担当教員	鳥居本 幸代 (生活福祉文化学部生活福祉文化学科教授)		
開講日程	2015 年 10 月 02 日(金)～2016 年 01 月 29 日(金)		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員		単位互換定員	
試験・評価方法	評価は、授業参加度（30%）、小テスト（20%）、確認テスト（50%）に基づいて総合的に行う。		
超過時の選考方法			
別途負担費用	教科書代		
その他特記事項	・ VOD のログインにはパスワードを設定している。 ユーザー名　kyo-togaku2011 パスワード　2011kytgaku ・ VOD の視聴は windows の場合、「Adobe Flash Player」がインストールされた「Firefox」で行う。 ・ 第 3 回講義は動画のみの視聴となるため、パワーポイント資料は web 上から取得する。 ・ 毎授業時に配布するプリントは、web 上から取得できる（とくに、第 13 回目、第 15 回目はテキストを使用しないため、プリント中心であるため要注意）。 ・ 毎講義ごとに web 上から小テスト問題を取得し、期限内に予習確認小テストを行う。 ・ 毎講義ごとに授業参加度確認のため、提出課題を設定している。web 上から取得し、期限内に提出する。 ・ 確認テストは web 上で取得し、期限内(1 月 22 日～1 月 28 日)に受験する。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
1. 科目の教育目標 京料理をキーワードに京都学を展開する。日本料理の歴史を探索することは、京料理の歴史を考察することであるといっても過言ではない。平安貴族の饗宴で提供された大饗料理をはじめに、室町時代には式正料理、その後、本膳料理、懐石料理、会席料理と展開したが、寺院の多い京都では食材を限定した精進料理が発展したのである。地の利を生かした野菜を多く用いる精進料理は懐石料理へと集約され、さらには京料理の特色ともなっている。精進料理に主眼を置きながら、京都の食文化を学ぶ。			

2. 教育・学習の個別課題 ①日本料理の変遷 ②精進料理の確立 ③京菓子 ④京野菜 ⑤京都の食習慣 3. 教育・学習の方法 講義で行い、第2回以降は予習として指定したテキストの該当ページに沿った確認小テストを行う。 4. 準備学習の具体的な方法 下記のように指定されたテキストの該当ページを読んでおくこと。 第02回 P11～32 第03回 P32～48 第04回 P6～7,P49～61 第05回 P63～74,P98～102 第06回 P74～84 第07回 P103～124 第08回 P85～97 第09回 P124～133,P189～195 第10回 P212～228 第11回 P156～168,P172～174,P195～212 第12回 P135～141,P169～171,P174～180,P232～236 第14回 P141～156	
講義スケジュール	
第01回 序論 日本料理の歴史的変遷から京料理の体系を明らかにする 第02回 大宮人の食生活を彩る食材と調味料 第03回 大饗料理 王朝人の食環境と食習慣 第04回 仏教伝来によって変貌する食文化 第05回 武士の台頭による食習慣の変化 第06回 茶の湯の展開と喫茶習慣 第07回 式正料理から本膳料理へ 第08回 禅と懷石料理 食事作法の誕生 第09回 卓袱料理と普茶料理 第10回 隠元と豆腐料理 第11回 江戸の料理本にみる精進料理 第12回 京料理と江戸前料理 第13回 京菓子の歴史 第14回 京野菜について 第15回 京料理と伝統行事	
教科書	『精進料理と日本人』鳥居本幸代、春秋社、2007年
参考書	1. 『日本食生活史』渡辺実著、吉川弘文館、2007年 2. 『食の文化を知る事典』岡田哲編、東京堂出版、2003年

B601 日本伝統文化論：雅楽はどこからきたのか

テーマ	B. 歴史と文化に触れる		
科目名	日本伝統文化論：雅楽はどこからきたのか		
略科目名	日本伝統文化論		
英文科目名	Traditional Japanese Culture		
大学名	京都ノートルダム女子大学		
連絡先	京都ノートルダム女子大学 教務部教務課 TEL：075-706-3745　FAX：075-706-3790		
担当教員	鳥居本 幸代（生活福祉文化学部生活福祉文化学科教授）		
開講日程	2015 年 04 月 17 日(金)～2015 年 07 月 24 日(金) 2 講時 10 時 45 分～12 時 15 分 ※対面授業を 3 回実施【第 06 回 05 月 22 日(金)、第 11 回 06 月 26 日(金)、第 15 回 07 月 24 日(金)】 ※上記以外は e-ラーニング授業		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員		単位互換定員	
試験・評価方法	評価は授業参加度（30%）、小テスト（20%）、確認テスト（50%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は、原則として単位を与えない。		
超過時の選考方法			
別途負担費用	教科書代		
その他特記事項	・第 06 回および、第 11 回、第 15 回は対面授業（京都ノートルダム女子大学にて実施）とするが、他の 12 回の授業は e ラーニングで行う。 ・毎授業時に配布するプリントは、web 上から取得できる。 ・毎講義ごとに web 上から小テスト問題を取得し、期限内に予習確認小テストを行う。 ・毎講義ごとに授業参加度確認のため、提出課題を設定している。web 上から取得し、期限内に提出する。 ・確認テストは web 上で取得し、期限内(7 月 24 日～7 月 30 日)に受験する。 ＜通学に関する注意事項＞ 本学への通学は、公共交通機関をご利用ください。 50cc を超えるバイクおよび自家用車での通学は認められておりません。また、自転車および 50cc 以下のバイクでの通学は、登録制となっております。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
1. 科目の教育目標 雅楽は伝統芸能のなかで最も長い歴史を有しているが、日本古来のものではない。6 世紀中葉、仏教伝来とともに中国、朝鮮、ベトナムなどから伝来した外来の音楽と舞である。大宝律令に雅楽寮を置いて育成保護に務め、平安時代には宮廷行事に不可欠な存在となり、貴族の教養科目の 1 つに数えられるほど愛好された。			

千年の時を隔てて継承された雅楽を通して、伝統文化の一端を探る。

2. 教育・学習の個別課題

- ①雅楽の歴史
- ②雅楽をとりまく環境
- ③雅楽と舞楽
- ④雅楽と装束
- ⑤平安朝文学作品と雅楽

3. 教育・学習の方法

講義形式で授業を進めるが、ビデオなどを活用してテキストの内容を補足する。さらに、雅楽器を手にとって演奏の体験をし、舞楽の観賞も実施する。

4. 準備学習の具体的な方法

第01回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。小テストをweb上で行う。

第02回 P3～13

第03回 P15～27

第04回 P28～45

第05回 P46～65

第06回 P5～12

第07回 P66～73

第08回 P75～94

第09回 P95～122

第10回 P123～146、P172～182

第11回 P218～250

第12回 P46～50、P183～196

第13回 P147～163

第14回 P36～39、P200～201

第15回 P251～268

講義スケジュール

第01回 序論 日本音楽の流れ

第02回 雅楽の定義

第03回 三韓楽と伎楽の伝来

第04回 外国音楽の消化

第05回 正倉院宝物の雅楽器を見る

第06回 雅楽器の演奏体験（対面授業）

第07回 正倉院宝物の伎楽面

第08回 雅楽の日本化

第09回 平安貴族のくらしと雅楽

第10回 平安朝の宮廷行事と雅楽

第11回 舞楽の鑑賞(対面授業)

第12回 東大寺大仏開眼会にみる法会と雅楽

第 13 回 祭礼と雅楽

第 14 回 『源氏物語』と雅楽

第 15 回 雅楽の現代（対面授業）

教科書

『雅楽一時空を超えた遙かな調べ』鳥居本幸代著、春秋社、2008 年

参考書

1. 『日本の古典芸能第 2 巻 「雅楽・王朝の宮廷芸能」』芸能史研究会編、平凡社、1970 年
2. 『雅楽のデザイン・王朝装束の美意識』多忠麿編、小学館、1990 年
3. 『日本音楽叢書 1 「雅楽」』木戸敏郎編、音楽友之社、1990 年
4. 『雅楽・重要無形文化財』下中記念財団編、平凡社、1990 年
5. 『雅楽入門』増本伎共子著、音楽友之社、2000 年

B602 仏教学入門			
テーマ	B. 歴史と文化に触れる		
科目名	仏教学入門		
略科目名	仏教学入門		
英文科目名	A brief history of Buddhist studies		
大学名	京都文教短期大学		
連絡先	教務課 TEL0774-25-2411 FAX0774-25-2455		
担当教員	仲宗根充修（幼児教育学科 准教授）		
開講日程	2015 年 10 月 02 日(金)～2016 年 02 月 01 日(月)		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	制限なし		
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	25
試験・評価方法	各回のまとめレポート、中間レポート、学期末レポート		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用			
その他特記事項	「インド仏教史（仲宗根）」修得者は履修できません。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
インド仏教史、およびチベット、スリランカ、東南アジア地域の仏教史、さらにはわたしたちにもかかわりの深い日本の仏教史に関する基本的な知識を身につけることを目標とする。			
講義スケジュール			
第 01 回 はじめに、仏教興起以前のインド			
第 02 回 ブッダの生涯(1)誕生・青年時代・出家			
第 03 回 ブッダの生涯(2)成道・梵天勧請			
第 04 回 ブッダの生涯(3)初転法輪・最後の旅			
第 05 回 初期仏教と部派仏教			
第 06 回 大乘仏教の興起			
第 07 回 大乘仏教の教理			
第 08 回 チベットにおける仏教の歴史			
第 09 回 スリランカにおける仏教の歴史			
第 10 回 東南アジアにおける仏教の歴史(1)			
第 11 回 東南アジアにおける仏教の歴史(2)			
第 12 回 日本における仏教公伝と飛鳥時代の仏教			
第 13 回 奈良時代～平安時代の仏教			
第 14 回 鎌倉時代～室町時代の仏教			
第 15 回 まとめ			
教科書	特になし。		
参考書	(1)中村元・田辺和子『ブッダ物語』、岩波書店、1990 年。 (2)三枝充恵『仏教入門』、岩波書店、1990 年。 (3)中村元・三枝充恵『バウツダ [佛教]』、講談社、2009 年。 (4)松尾剛次『仏教入門』、岩波書店、1999 年。		

	(5)末本文美士『日本仏教史』，新潮社，1996 年。
--	-----------------------------

D601 文学作品をよむ 『小倉百人一首』の世界 ―鑑賞と研究の違いをふまえて―

テーマ	D. 文学の世界に触れる		
科目名	文学作品をよむ 『小倉百人一首』の世界 ー鑑賞と研究の違いをふまえてー		
略科目名	小倉百人一首の世界		
英文科目名	Literature of Japan		
大学名	京都文教短期大学		
連絡先	教務課 TEL 0774-25-2411 FAX 0774-25-2455		
担当教員	千古利恵子（幼児教育学科 教授）		
開講日程	2015 年 09 月 28 日(月) ～2016 年 01 月 22 日(金)		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	制限なし		
会場	e ラーニング		
授業定員	60	単位互換定員	50
試験・評価方法	レポート試験		
超過時の選考方法			
別途負担費用			
その他特記事項			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
「文学作品」として評価されている作品を鑑賞し、自らの作品評価と比べながら、「文学作品」という評価を生み出す背景を考えてみる。 従って、本講義では、「よむ」ためには基礎的な知識が必要であること、鑑賞と研究の違いをふまえた「よみ」の方法があること、を和歌集や和歌を例に学ぶ。 さらに、その学習の実践として『百人一首』の鑑賞を行い、その鑑賞が「生きることの考察」に通じる「よみ」に発展させることを、目標とする。			
講義スケジュール			
第 01 回 オリエンテーション			
第 02 回 「文学作品」の姿形ー「本」のいろいろ			
第 03 回 「文学作品」という区分ー「文学史」というテキストの存在			
第 04 回 作品の誕生と作品の製造ー勅撰和歌集と私撰和歌集のちがい			
第 05 回 作品の運命ー 無名作品・ベストセラー作品の寿命			
第 06 回 『小倉百人一首』をよむ(1)ー鑑賞してみようー			
第 07 回 『小倉百人一首』をよむ(2)ー研究のための知識ー			
第 08 回 『小倉百人一首』をよむ(3)ー作品をめぐる人間の欲望			
第 09 回 『小倉百人一首』収録歌人の人生をよむ(1)ー武士の決断			
第 10 回 『小倉百人一首』収録歌人の人生をよむ (2)ー父と息子の葛藤			
第 11 回 『小倉百人一首』収録歌人の人生をよむ(3)ー 勢力争い			
第 12 回 「よむ」姿勢に影響する他者の評価			
第 13 回 「よむ」姿勢に影響する固定概念 ー「女性らしさ」の検証			
第 14 回 古典文学の生き残り法 ー 伝統文化の継承			
第 15 回 まとめ			
教科書			

参考書	『和歌文学へのいざない』 和歌文学研究の入門と鑑賞 (千古 利恵子著 創文社刊)
-----	---

E601 コミュニケーション論			
テーマ	E. ことばの魅力を知る		
科目名	コミュニケーション論		
略科目名	コミュニケーション論		
英文科目名	Communication Skill		
大学名	京都文教短期大学		
連絡先	教務課 TEL0774-25-2411 FAX0774-25-2455		
担当教員	森川知史（ライフデザイン学科 教授）		
開講日程	2015 年 04 月 20 日(月)～2015 年 07 月 22 日(水)		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次	制限なし		
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	45
試験・評価方法	レポート試験/小テスト		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用			
その他特記事項			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
確かな人間関係を築き、育てるためのコミュニケーションのあり方を考えたい。他者とコミュニケーションすることで、私たち自身に起こる様々な変化についても考えたい。私たちが日常的に行っているコミュニケーションについて、改めて見つめ直し、考え直すきっかけにしたい。			
講義スケジュール			
第 01 回 はじめに			
第 02 回 ことばとはなにか			
第 03 回 ことばと身体			
第 04 回 ことばと身体のコミュニケーション			
第 05 回 交流としてのコミュニケーション			
第 06 回 モノとイメージのコミュニケーション			
第 07 回 コミュニケーションのダイナミズム			
第 08 回 意味とコミュニケーション			
第 09 回 コミュニケーションのいま			
第 10 回 メディアとコミュニケーション			
第 11 回 「わたし」とコミュニケーション			
第 12 回 よりよいコミュニケーション			
第 13 回 同質な群れからの脱出			
第 14 回 人間関係をどう育てるか			
第 15 回 まとめ			
教科書	「確かな人間関係のためのコミュニケーション論」 森川知史、京都書房		
参考書	特になし。		

F601 特別講座科目4「仏教のこころー真実と救いー」

テーマ	F. いのちと人間を考える		
科目名	特別講座科目4「仏教のこころー真実と救いー」		
略科目名	特別講座科目4		
英文科目名	Pureland Buddhism and Shinran		
大学名	京都女子大学		
連絡先	教務課キャリアセンター TEL : 075-531-9177 FAX : 075-531-9145		
担当教員	秋本 勝（本学教授）		
開講日程	2015年09月14日（月）～2016年01月27日（水）		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	2年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	50
試験・評価方法	レポート試験		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	本学の学生（京都女子大学生）は、この特別講座科目4の出願不可。		
低回生受講推奨科目			

講義概要・到達目標

仏教は、古来より、日本文化にも広く深く浸透している。しかし今日、仏教は必ずしも生きたものとして存在しているとは言えない面もある。そこで、本講義では仏教が現代社会にいかに関与するものかを念頭において行うものである。内容は、大乗仏教のなかの浄土教と親鸞の思想であるが、宗派的、宗学的な立場からではなく、仏教開祖・釈尊の仏教に照らし合わせながら、仏教という大きな思想の枠組みのなかで、浄土教や親鸞思想をとらえようとする試みである。仏教が時代を超えて変わらず我々に訴えかけているものは何かを把握することを目指す。

講義スケジュール

第01回：序説(仏教の基本的立場、日本の仏教事情など)

第02回：神話的描写(浄土教経典と『無量寿経』)

第03回：仏の願いと実践(『無量寿経』1)

第04回：仏の意味と真実(『無量寿経』2)

第05回：人間の愚かさ(『観無量寿経』)

第06回：人間と救い(『阿弥陀経』)

第07回：龍樹・天親・曇鸞・道綽(七祖 1)

第08回：善導・源信・法然(上)(七祖 2)

第09回：法然(下)(七祖 3)

第10回：親鸞の生涯 1(誕生,出家,転機)

第11回：親鸞の生涯 2(回心,結婚,法難)

第12回：親鸞の生涯 3(流罪,伝道,著作)

第13回：親鸞の他力思想 1(『教行信証』から)

第14回：親鸞の他力思想 2(『歎異抄』から)

第 15 回：まとめ(仏教、浄土教の意味)	
教科書	
参考書	講義資料は当該講義サイトにアップする。

G601 キャリア形成論

テーマ	G. 教育とは…何だろう		
科目名	キャリア形成論		
略科目名	キャリア形成論		
英文科目名	Career Planning		
大学名	京都文教短期大学		
連絡先	教務課 TEL0774-25-2411 FAX0774-25-2455		
担当教員	桑原千幸（ライフデザイン学科 講師）		
開講日程	2015 年 10 月 02 日(金)～2016 年 02 月 01 日(月)		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	2 年次以下		
会場	e ラーニング		
授業定員	40	単位互換定員	40
試験・評価方法	各回のタスク・小テスト／レポート試験		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用			
その他特記事項			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義概要】			
主体的なキャリア形成が求められる社会情勢やキャリアの基本的な概念を学び、自己理解、職業理解を深めることによって職業観を育む。また、将来の目標や夢を実現するために何をすべきかというキャリアデザインを行っていく。			
VOD 講義視聴の他に、掲示板上での相互コメントや提出課題の相互評価学習を通じて他の大学・短期大学に所属する受講者と意見を交わし、多様な価値観に触れることによって自己理解の深化をめざす。単に講義を聞くだけではなく、自分の考えを文章で表現し、授業に積極的に取り組む姿勢を求める。			
【到達目標】			
(1)キャリア形成が求められる社会情勢と多様な働き方について理解し、自らの職業観を確立する。			
(2) 他者との意見交換をもとに自己理解を深め、自分の考えを表現することができるようになる。			
(3)夢や目標を実現するために何をすべきかを考えて計画し、行動することができるようになる。			
講義スケジュール			
第 01 回 オリエンテーション～現代社会とキャリア形成			
第 02 回 キャリアの概念と生涯発達			
第 03 回 自分について考えるⅠ～自分史による自己理解			
第 04 回 さまざまな働き方			
第 05 回 ライフサイクルとキャリア 1			
第 06 回 ライフサイクルとキャリア 2			
第 07 回 若年者のキャリアに関する問題			
第 08 回 職業理解～業界・職種			
第 09 回 自分について考えるⅡ～価値観・職業観			
第 10 回 社会人に求められる能力			

第 11 回 自分について考えるⅢ～キャリア・アンカー
 第 12 回 キャリアの転機を考えるケーススタディ
 第 13 回 自分について考えるⅣ～夢・目標、10 年後の私
 第 14 回 キャリアプランの作成と相互評価
 第 15 回 振り返りとまとめ

教科書	特になし。
参考書	授業時に適宜提示する。

H601 数の理解			
テーマ	H. 自然に学ぶ		
科目名	数の理解		
略科目名	数の理解		
英文科目名	Remedial course in Math		
大学名	京都光華女子大学短期大学部		
連絡先	学生サポートセンター修学担当 tel.075-325-5309 fax.075-325-5317		
担当教員	辻野 孝（ライフデザイン学科教授）		
開講日程	2015 年 04 月 25 日（土）～2015 年 08 月 7 日（金） 筆記試験：2015/08/07（金）14 時 30 分～16 時 00 分 場所：キャンパスプラザ京都 5 階 第 1 講義室		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次	制限なし		
会場	e ラーニング		
授業定員	80	単位互換定員	70
試験・評価方法	平常点（授業参加状況、小テスト）、定期試験で総合的に評価する		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
数に親しみ、授業や社会生活に必要な問題を解答できる力を身につけることを目標とする。 小学校 4 年生程度から中学卒業レベルの数学の問題を復習した後、就職試験で使われる数学の問題を学習する。 初回の対面授業では、授業のガイダンスとして授業の概要や受講上の注意、教科書の購入について説明する。また、その際に実力試験を実施して、授業の進め方の参考にする。			
講義スケジュール			
1. VOD：小学校の算数(1) 2. VOD：小学校の算数(2) 3. VOD：小学校の算数(3) 4. VOD：小学校の算数(4) 5. VOD：中学校の数学(1) 6. VOD：中学校の数学(2) 7. VOD：中学校の数学(3) 8. VOD：中学校の数学(4) 9. VOD：資格試験(1) 10. VOD：資格試験(2) 11. VOD：資格試験(3) 12. VOD：資格試験(4)			

13. VOD：就職試験問題(1)	
14. VOD：就職試験問題(2)	
15. まとめ	
教科書	波多江茂樹著「テスト形式！やり直しのやさしい数学」（日刊工業新聞社）【各自で必ず入手してください】
参考書	

J601 情報処理技術			
テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	情報処理技術		
略科目名	情報処理技術		
英文科目名	Information Processing Technology		
大学名	京都学園大学		
連絡先	教育修学支援センター事務室 TEL：0771-29-3649　FAX：0771-29-2389		
担当教員	駒田忠一(経済経営学部准教授)		
開講日程	2015 年 04 月 17 日(金)～2015 年 08 月 05 日(水)		
単位数	2	開講区分	春学期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	100	単位互換定員	50
試験・評価方法	平常点（40％）学習履歴状況等による。e-learning により課す課題評価（60％）		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用			
その他特記事項	VOD方式による完全オンライン授業 能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。 新技術・機器等の推移を知ることが心げること。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義概要】 社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。			
【到達目標】 社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。			
講義スケジュール			
1.講義の概要、e-learning の進め方 セキュリティ問題と対策 セキュリティと暗号技術、デジタル署名 システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性			
2.基本的なデータ構造 各種データ構造の特徴 線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2分探索木 表計算 表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理			
3.SQL 文から見たデータベース			

テーブル作成からサブクエリ

4.データベース

データベースの種類と特徴

ファイル 正規化演習

5.リレーショナルデータベース

構造と正規化、設計

6.データベースを使ったデータ処理(1 正規化作業)

データ整理、集計、分析

7.データベースを使ったデータ処理(2 Select 文の基本)

データ整理、集計、分析

8.データベースと SQL(1 データ処理演習)

SQL 言語による操作

問い合わせ、副問い合わせ

9.データベースと SQL(2 流れのある処理)

SQL 言語による定義・生成と修正

表の設計、表・ビューの定義

10.データベースの設計・利用

演習 SQL 操作理解確認演習

11.SQL によるデータベースの定義・利用

演習 SQL・データベースまとめ課題

12.スクリプト(java)

スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述

13.スクリプトと基本アルゴリズム

接続・繰り返し・判断

イベント処理

14.基本的なアルゴリズム

並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み

スクリプト演習：バブルソート

15.総合演習

教科書	なし、各講義で資料をネットワークから配布する。
参考書	教材から指示する。

J602 コンピューティングファンダメンタルズ			
テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	コンピューティングファンダメンタルズ		
略科目名	コンピューティング		
英文科目名	Computing Fundamentals		
大学名	京都光華女子大学		
連絡先	学生サポートセンター修学担当 tel.075-325-5307 fax.075-325-5317		
担当教員	阿部 一晴（キャリア形成学部 キャリア形成学科 准教授）		
開講日程	2015 年 04 月 18 日（土）～2015 年 08 月 31 日（月）		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次			
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	50
試験・評価方法	平常点（授業参加状況・小テスト等）／期末レポート		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	本科目受講後、IC3 コンピューティングファンダメンタルズの受験を推奨する。 http://ic3.odyssey-com.co.jp/index.html テキストに沿って授業を進めるため、指定教科書は必ず購入すること。（絶版書籍であるが、書店/生協から出版社に注文することでオンデマンド発行される）もし入手不可の場合は、参考書（「デジタルリテラシーの基礎① コンピューターの基礎知識」）を入手すること。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義の概要】 現代の高度情報化社会における諸問題の発見と解決を図るために必要となる情報処理・情報通信に関する基礎的な知識を習得する。具体的には、 ①コンピュータハードウェアの基礎（コンピュータの種類、コンピュータが情報を処理する方法、コンピュータが他のコンピュータシステムやコンピュータ機器とどのように相互に作用しあうのか等） ②コンピュータソフトウェアの基礎（ソフトウェアの種類、種類別のソフトウェアの基本的な概念と一般的な使用方法等） ③オペレーティングシステムの基礎（オペレーティング システム（OS）とは何か、OS がどのように動作するか、OS に関連する一般的な問題解決の方法等） その他コンピュータ利用に必要な知識・技術の基本を取り扱う。 【到達目標】 情報処理技術（コンピュータ）全般に関して、主にハードウェア、ソフトウェアの概念や動作の仕組みの基本について理解し、その概要について説明できるようになる。 今後の情報通信技術学習に必須な基礎知識を身に付け、関連する設問に対して正確に解答できるようになる。 具体的なレベルとしては、IC3 グローバルスタンダード 4（GS4）コンピューティングファンダメンタルズに合格するレベルとする。			
講義スケジュール			

第 01 回 ガイダンス①／IC3 について

第 02 回 ガイダンス②／この科目で扱う内容，コンピュータとは何か

第 03 回 コンピュータの種類と仕組み①(機器の種類，CPU の役割・速度)

第 04 回 コンピュータの種類と仕組み②(記憶装置，データ表現，内部処理)

第 05 回 コンピュータの構成要素①(周辺機器，入力装置，出力装置)

第 06 回 コンピュータの構成要素②(記憶媒体，ポートの種類・特徴，周辺機器の追加方法)

第 07 回 コンピュータの選定

第 08 回 メンテナンスとトラブルシューティング

第 09 回 ソフトウェアの仕組み

第 10 回 ソフトウェアの種類と使用方法

第 11 回 オペレーティングシステムの基礎知識①(OS の目的・種類)

第 12 回 オペレーティングシステムの基礎知識②(複数 OS の利用，機能と制限，問題と解決)

第 13 回 Windows の基本操作

第 14 回 コントロールパネルとシステム設定

第 15 回 全体のまとめ

教科書および e-learning 教材(e 京都ラーニング内で提示されるレポート課題・小テスト)による自学自習による補講を必須とする。

教科書	完全攻略 IC3 テキスト グローバルスタンダード 3 対応 コンピューティングファン ダメンタルズ／下田孔也 著／日経 BP 社 ISBN : 9784891006464
参考書	デジタルリテラシーの基礎① コンピューターの基礎知識/下田孔也 著/オデッセイ コミュニケーションズ ハードウェアの知識と実務／矢沢久雄 著／翔泳社 オペレーティングシステムの知識と実務／長谷川裕行／翔泳社

J603 経営情報論			
テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	経営情報論		
略科目名	経営情報論		
英文科目名	Business Information		
大学名	京都光華女子大学		
連絡先	学生サポートセンター修学担当 tel.075-325-5307 fax.075-325-5317		
担当教員	阿部 一晴（キャリア形成学部 キャリア形成学科 准教授）		
開講日程	2015 年 04 月 18 日（土）～2015 年 08 月 31 日（月）		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	50
試験・評価方法	平常点（授業参加状況・小テスト等）／期末レポート		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	特に必要な前提知識等は規定しないが、ビジネスや企業活動といったものに興味・関心が無い学生の受講は認めない。 新聞やテレビ等を通じて社会の最新の動きに興味を持つこと。 テキストに沿って授業を進めるため、指定教科書は必ず購入すること。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義の概要】 経営・ビジネスと情報通信技術 現代社会の特徴は高度な情報化にあり，社会経済システム，生活，文化とあらゆる面で情報化が進み，情報社会と呼ばれる．この情報化により大きな影響を受けている分野の一つとして経営・ビジネスを挙げることができる．経営とは，「戦略・マーケティング」「人事・組織」「会計・財務」といった要素から成り立っているが，これらは企業活動の中心であり，今日ではコンピュータやネットワークといった情報通信技術の積極的な活用抜きでおこなうことはできない．本講義では，こういった視点に立ち，経営やビジネスの基本とそこで活用されている情報通信技術についての現状と将来について考えていく．			
【到達目標】 1. ビジネスと ICT（情報通信技術）の関わりについて理解し，その概要について説明したり，関連する設問に対して正確に解答できるようになる 2. ビジネスソリューションを実現する具体的な ICT の要素技術について理解し，その概要について説明したり，関連する設問に対して正確に解答できるようになる 3. ビジネス・プロセスに注目した業務改革の具体的な事例を理解し，その概要について説明できるようになる 具体的なレベルとしては，授業で取り上げた重要項目についての理解や考察内容について期末レポート課題等で合格水準（概ね 70 点以上）に達しているかで評価する．			
講義スケジュール			

第 01 回	オリエンテーション／この科目で扱う内容
第 02 回	経営情報論の基礎 (pp.1-27)
第 03 回	経営情報論の基礎理論(経営組織論) (pp.29-40)
第 04 回	経営情報論の基礎理論②(経営戦略論)／経営情報システムの変遷①(意思決定支援) (pp.41-69)
第 05 回	経営情報システムの変遷②(戦略的活用) (pp.69-78)
第 06 回	情報通信技術の進展 (pp.79-107)
第 07 回	経営情報システムの設計・開発 (pp.109-135)
第 08 回	経営情報システムの管理 (pp.137-163)
第 09 回	情報通信技術とビジネス・プロセス革新 (pp.165-186)
第 10 回	ネットビジネス①(ネットビジネスの萌芽)(pp.187-196)
第 11 回	ネットビジネス②(サーチエコノミー) (pp.196-211)
第 12 回	情報通信技術と組織変革①(組織構造の変革) (pp.213-226)
第 13 回	情報通信技術と組織変革②(組織間関係の革新)／情報通信技術と組織コミュニケーション①(コミュニケーションとメディア) (pp.226-251)
第 14 回	情報通信技術と組織コミュニケーション②(組織知の生成)／情報通信技術と社会①(社会的存在としての企業) (pp.252-273)
第 15 回	情報通信技術と社会②(ビジネスにおける情報倫理の諸問題)／まとめと今後の展望 (pp.273-306)
※0内は教科書の該当ページ	

教科書および e-learning 教材(e 京都ラーニング内で提示されるレポート課題・小テスト)による自学自習による補講を必須とする。

教科書	経営情報論新版/遠山暁・村田潔・岸真理子 著/有斐閣/2008 年 http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/ ISBN : 9784641123533
参考書	ネットワーク社会のビジネス革新/成川忠之・戦略研究学会・原田保 著/芙蓉書房出版 経営情報システム改訂第 3 版/島田達巳・高原康彦 著/日科技連 Essentials of Business Information Systems 7th Edition/K.Laudon ・ J.Laudon/Prentice Hall

J604e ビジネス論

テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	e ビジネス論		
略科目名	e ビジネス論		
英文科目名	Electronic Business		
大学名	京都光華女子大学		
連絡先	学生サポートセンター修学担当 tel.075-325-5307 fax.075-325-5317		
担当教員	阿部 一晴（キャリア形成学部 キャリア形成学科 准教授）		
開講日程	2015 年 09 月 19 日（土）～2016 年 02 月 28 日（日）		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	50
試験・評価方法	平常点（授業参加状況・小テスト等）／期末レポート		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	特に必要な前提知識等は規定しないが、ビジネスや企業活動といったものに興味・関心が無い学生の受講は認めない。 新聞やテレビ等を通じて社会の最新の動きに興味を持つこと。 テキストに沿って授業を進めるため、指定教科書は必ず購入すること。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義の概要】 ICT を活用した新しいビジネスの現状と将来 インターネットを中心とした ICT（情報通信技術）の進化にともない様々なビジネスのスタイルが大きく変化している。具体的な事例や関連の技術動向等の紹介を通じて、実社会におけるビジネスの現状を概観すると同時に、新たなビジネスの可能性についても検討していく。具体的には、「ビジネスモデル」「e ビジネスをとりまく環境」「B to C ビジネスと B to B ビジネス」「ネット広告と e マーケティング」「イノベーションの視点から見た e ビジネス」などについて取り上げる。			
【到達目標】 1.e ビジネスを実現する具体的な ICT の要素技術について理解し、その概要について説明したり、関連する設問に対して正確に解答できるようになる 2. 実社会におけるビジネスの現状を概観し理解し、特に ICT 活用の概要について説明できるようになる 3. 新たなビジネスの可能性について考えるための基本的な視点・感覚を身につけ、その概要について説明できるようになる 具体的なレベルとしては、授業で取り上げた重要項目についての理解や考察内容について期末レポート課題等で合格水準（概ね 70 点以上）に達しているかで評価する。			
講義スケジュール			
第 01 回 オリエンテーション／この科目で扱う内容			

- 第 02 回 e ビジネスとは
- 第 03 回 ビジネスの基礎／ビジネス事例
- 第 04 回 e ビジネスの状況①(インターネット社会) (pp.1-4)
- 第 05 回 e ビジネスの状況②(e ビジネス・電子商取引の進展) (pp.4-10)
- 第 06 回 B to C ビジネス①(動向・ポータル) (pp.11-20)
- 第 07 回 B to C ビジネス②(ネットショップ) (pp.20-60)
- 第 08 回 ネット広告と e マーケティング①(e マーケティング) (pp.61-73)
- 第 09 回 ネット広告と e マーケティング②(ネット広告) (pp.73-93)
- 第 10 回 B to B (pp.94-123)
- 第 11 回 e ビジネス／e コマースでの物流・金融 (pp.124-141)
- 第 12 回 クリック&モルタル, O t o O, B to B to C (pp.142-162)
- 第 13 回 旅行業界の e ビジネス／e コマース, e ビジネス／e コマースで使われる技術 (pp.163-194)
- 第 14 回 ビジネス方法特許, イノベーションの視点から見た e ビジネス (pp.195-220)
- 第 15 回 全体のまとめ

※0内は教科書の該当ページ

教科書および e-learning 教材(e 京都ラーニング内で提示されるレポート課題・小テスト)による自学自習による補講を必須とする。

教科書	e ビジネスの教科書 (第五版) / 幡鎌博 著 / 創成社 / 2014 年 http://www.books-sosei.com/book/24341.html ISBN : 9784794424341
参考書	情報経済システム (日本の産業システム第 5 巻) / 林敏彦 著 / NTT 出版 経営情報論 (新版) / 遠山暁・村田潔・岸真理子 著 / 有斐閣 Essentials of Business Information Systems 7th Edition / K.Laudon ・ J.Laudon / Prentice Hall

J605 リビングオンライン

テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	リビングオンライン		
略科目名	リビングオンライン		
英文科目名	Living Online		
大学名	京都光華女子大学		
連絡先	学生サポートセンター修学担当 tel.075-325-5307 fax.075-325-5317		
担当教員	阿部 一晴（キャリア形成学部 キャリア形成学科 准教授）		
開講日程	2015 年 09 月 19 日（土）～2016 年 02 月 28 日（日）		
単位数	2	開講区分	後期
対象年次			
会場	e ラーニング		
授業定員	50	単位互換定員	50
試験・評価方法	平常点（授業参加状況・小テスト等）／期末レポート		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	本科目受講後、IC3 リビングオンラインの受験を推奨する。 http://ic3.odyssey-com.co.jp/index.html テキストに沿って授業を進めるため、指定教科書は必ず購入すること。（絶版書籍であるが、書店/生協から出版社に注文することでオンデマンド発行される）もし入手不可の場合は、参考書（「デジタルリテラシーの基礎② ネットワークの基礎知識」）を入手すること。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
【講義の概要】 現代の高度情報化社会における諸問題の発見と解決を図るために必要となる情報処理・情報通信に関する基礎的な知識を習得する。具体的には、 ①ネットワークとインターネットの基礎知識（ネットワークの基礎、ネットワークコンピューティングのメリットとリスク等） ②電子メールの機能と操作（電子メールシステムの概要、電子メールソフトの使用法等） ③インターネットの利用方法と操作（インターネット上のさまざまな情報源等） ④コンピュータとインターネットが社会に与える影響（職場・学校・家庭など、さまざまな分野でコンピュータがどのように使用されているか等） その他コンピュータネットワーク利用に必要な知識・技術の基本を取り扱う。 【到達目標】 情報通信技術（ネットワーク）全般に関して、主にコンピュータネットワーク、インターネットの概念や動作の仕組みの基本について理解し、その概要について説明できるようになる。 今後の情報通信技術学習に必須な基礎知識を身に付け、関連する設問に対して正確に解答できるようになる。 具体的なレベルとしては、IC3 グローバルスタンダード 4（GS4）リビングオンラインに合格するレベルとする。			
講義スケジュール			

第01回 ガイダンス／IC3について，この科目で扱う内容，ネットワークとは何か

第02回 ネットワークの基礎

第03回 インターネットの基礎

第04回 コンピュータネットワークのリスク対策

第05回 コミュニケーションツールの概要

第06回 電子メールの概要

第07回 効果的なコミュニケーション

第08回 インターネットの概要

第09回 ブラウザの操作

第10回 ブラウザの便利な機能

第11回 コンテンツの共有，検索，評価

第12回 社会分野のコンピュータの利用

第13回 コンピュータの使用にかかわるリスク

第14回 コンピュータの利用にかかわるモラル

第15回 全体のまとめ

教科書および e-learning 教材(e 京都ラーニング内で提示されるレポート課題・小テスト)による自学自習による補講を必須とする。

教科書	完全攻略 IC3 テキスト グローバルスタンダード3 対応 リビングオンライン／管野弘子 著／日経 BP 社 ISBN：9784891006488
参考書	デジタルリテラシーの基礎② インターネットの基礎知識/立山秀利也 著/オデッセイコミュニケーションズ ネットワークの知識と実務／村嶋修一 著／翔泳社

J606 消費者取引と大学生～理論と実際の対策～

テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	消費者取引と大学生～理論と実際の対策～		
略科目名	消費者取引と大学生		
英文科目名	Consumer Transaction in Student Life		
大学名	京都産業大学		
連絡先	教学センター TEL：075-705-1425 FAX：075-705-1582		
担当教員	吉永 一行 （法学部）		
開講日程	2015 年 04 月 17 日(金)～2015 年 07 月 31 日(金)		
単位数	2	開講区分	春学期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	30	単位互換定員	15
試験・評価方法	期末レポート(7 月中旬締切り)100%。ただし、15 回の授業で毎回提示される課題（200 字程度のレポート）をすべて提出し、合格することが、期末レポート提出の条件となる。レポートの課題は、提出の 1 週間前に発表する。その他詳細は、LMS 上で通知する。		
超過時の選考方法	書類選考		
別途負担費用			
その他特記事項	履修上の注意 授業ビデオの配信は VOD(Video on Demand)方式であり、インターネット環境さえあればどこでも、自由な時間に視聴することが可能である。しかし毎回の授業には課題が付されており、これを週に 1 ないし 2 回分ずつ計画的に提出することが必要である。短期間にまとめて課題を提出することはできないので注意すること。 対面で行う授業とは異なり、学習者が学習している場所自体には教員も他の学習者もいない。このため学習者は自律して学習をしなければならない。学ぶことに対するモチベーションをもち、維持することが受講には必要である。 内容面では、本講義は悪徳商法から身を守るノウハウを教えることそれ自体を主たる目的とはしていないことに注意が必要である。「消費者保護」という切り口を用いて、我が国の私法制度の基本的な制度、価値判断、考え方を説明することを目的としているので、そうした意識で受講することが必要である。		
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
講義概要			
法的取引を行わないままに社会の中で生活することはできない。大学を卒業し企業に雇用された場合はもちろん、家庭生活を営むにあたってもそれは当てはまる。大学生として生活を営む段階ですら、法的取引は避けて通れないのである。 本講義では、そうした社会生活における法的取引を支える諸制度の概要を、それを支える法的原理・価値判断にまでさかのぼって説明する。その際、学生にとっても他人事とは言えない悪徳商法を一つの切り口とし、自分自身が被害を避けるための適切な措置をとり、あるいは他人に助言を与えたりすることができるようになることを目標とする。			

授業の到達目標

本講義の到達目標は、以下の(1)及び(2)ができるようになることである。

(1)以下のような事項について、資料を参照しながら、制度の背景にある法的価値判断にも触れながら自分の言葉で説明ができるようになること。

- ・契約制度（成立要件、効力否定要件）
- ・民事裁判・執行の手続きの流れ
- ・とりわけ大学生に被害の多い消費者取引の類型とそれに対する法的な保護

(2)授業で取り上げる悪徳商法を避けるために気をつけるべきこと、あるいは悪徳商法の被害にあった際にとるべき措置について、適切な情報源を選択し、そこから得られた資料を参照しながら説明することができ、実際にそれを行動に移すことができること。

講義スケジュール

講義スケジュール

本科目はフル e ラーニング科目である。すなわち教員による講義は全てインターネット上の LMS(Learning Management System：学習管理システム)を通じたビデオ配信によって行われ、課題の提出やそれに対するフィードバックも全てインターネットによって行われる。

- 1.授業ガイダンス
- 2.架空請求とその対策
- 3.契約制度—成立を中心として
- 4.民事裁判・民事執行制度
- 5.成立した契約の効力の否定
- 6.「勘違い」と契約の効力
- 7.ワンクリック請求
- 8.訪問販売とクーリング・オフ
- 9.訪問しない「訪問販売」
- 10.電話勧誘販売・通信販売
- 11.マルチ商法
- 12.約款—その必要性和法規制
- 13.適格消費者団体と団体訴訟制度
- 14.消費者法としての競争法
- 15.まとめ

準備学習等(事前・事後学習)

各回の授業には、ビデオで使用されるスライドを並べた資料が付されている。授業ビデオの視聴を始める前に資料を一読し、わからない箇所(特に注意して聞くべき箇所)を洗い出しておくこと。

さらに各回の講義には課題が付されている。「試験・評価方法」に記載の通り、成績評価は、期末レポートのみで行うが、各回の講義に付された課題をすべて提出し、合格することが、レポート提出の条件となる。また、レポートの内容は、講義に対する理解が積み重ねられているかを問うものである。この意味でも、各回の講義で出される課題にも真摯に取り組むことが必要である。

講義には専門的な法律用語が少なからず登場する。講義中にわかりやすく説明をするつもりであるが、それでもわからない点があれば、授業前又は授業後に、民法・消費者法の入門書や国民生活センターなど適切な Web サイトで調べることが必要である。さらに不明な点は、LMS 上のツールを通じて積極的に質問をすることも必要である。

教科書

J607 統計学（社会現象をデータで理解する）

テーマ	J. 現代社会を知る・考える		
科目名	統計学（社会現象をデータで理解する）		
略科目名	統計学		
英文科目名	Statistics for Society and Humanities		
大学名	京都女子大学		
連絡先	教務課 TEL : 075-531-7048 FAX : 075-531-7089		
担当教員	小波 秀雄（本学教授）		
開講日程	2015 年 04 月 17 日（金）～2015 年 08 月 03 日（月）		
単位数	2	開講区分	前期
対象年次	2 年次以上		
会場	e ラーニング		
授業定員	100	単位互換定員	100
試験・評価方法	期間中に小テストを数回実施し、その成績で評価する。		
超過時の選考方法	書類選考（志望理由）		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	京都女子大学の学生については、本科目による単位の取得は認めない。 京都女子大学現代社会学部で開講されている 3 年次向け「統計学」を履修すること。		
低回生受講推奨科目			

講義概要・到達目標

統計学は、未知の母集団からその特性を客観的なデータとして引き出すために発展してきた学問で、特に心理学や教育学、医学、経済学、社会学などの広範な分野において、必須のリテラシーとなっています。この講義では確率の基礎からスタートして、母集団からサンプリングしたデータをどのように処理するのか、結果をどのように解釈すべきなのかを学びます。それらを通じて、データの信頼性とはなにか、近年よくいわれるリスク判断の意味など、現代的な問題を理解するための力を養います。

講義スケジュール

1. 多数のデータを集計する
2. さまざまの統計量(社会の公平性をデータで見る)
3. 確率論の基礎 I
4. 確率論の基礎 II
5. 確率分布 I
6. 確率分布 II, 二項分布
7. 正規分布の基本
8. 正規分布を使って集団の中の位置を知る
9. 抽出された標本の確率分布—標本平均の確率分布
10. 抽出された標本の確率分布— χ^2 二乗分布
11. 統計データからの推定—信頼度とは何か
12. 仮説検定—異常とは何か
13. 統計的検定—贋金を見破る方法
14. データの相関—最小二乗法

15. 関連の検定	
教科書	教科書として電子教材（無料）を下記よりダウンロードのこと。 http : ruby.kyoto-wu.ac.jp/~konami/Text/Statistics.pdf
参考書	